

第6回サステナブル建築賞

募集要項

主催 一般財団法人建築環境・省エネルギー機構

地球温暖化等環境問題は、人類にとって最も大きな課題のひとつであり、自然環境・生活環境を保全し、サステナブル社会を形成することが強く求められています。

このような状況下において、建築分野では、エネルギー消費と環境負荷を低減する住宅・建築物の整備・普及を進める必要があります。

(一財)建築環境・省エネルギー機構では、環境の価値を重視し、居住環境の豊かさを維持しながら、省エネルギーと環境負荷低減により、サステナブル社会の実現に貢献する優れた建築物を顕彰するために、この度、第6回サステナブル建築賞の候補作品の公募をします。多くの方々のご応募をお待ちいたします。

1. 目的

このサステナブル建築賞は、建築物として優れた作品であるとともに、建築主、設計者及び施工者の三者の協力により、新築、増改築等において、環境負荷低減、省CO₂、省エネルギーに顕著な成果を上げ、その普及効果が期待される先導的なサステナブル建築物を顕彰することによって、それらに関する設計、施工及び運用管理技術等の向上と普及を図り、サステナブル社会の構築に寄与することを目的とします。

2. 対象建築物

対象となる建築物は、戸建住宅を除く建築物で、日本国内に存する建築関係法令に適合する新築、増改築等の工事が完了してから、概ね3年以内のもので、応募日現在、概ね1年以上使用しているものとします。

3. 応募部門

(1) 事務所建築部門

(2) 商業施設その他部門

店舗、ホテル、病院、娯楽施設、共同住宅、文教施設、交通施設、生産施設等

(3) 小規模建築部門

延べ面積が概ね5,000 m²以下の建築物とし、用途は問いません。

(これに該当する建築物で、(1)又は(2)の部門に応募も可能です。)

4. 応募資格・条件

1) 原則として建築主、設計者及び施工者の三者の連名とします。(但し、都合により二者連名又はいずれか単独となっても結構です。その場合、予め関係者の了解を取ったうえで応募してください。)

2) 応募責任者1名を定め、応募してください。

5. 賞

- 1) 各部門ごとに、国土交通大臣賞 1点
- 2) 各部門ごとに、(一財)建築環境・省エネルギー機構理事長賞 1点
- 3) 1)、2)以外で、審査委員会奨励賞 数点

6. 審査

審査委員会で提出された応募資料に基づき書類審査を行うとともに、必要に応じて現地審査(応募者からの説明及び質疑応答を含む)を行い、優秀な作品について賞を決定します。

審査委員会(敬称略)

- | | | |
|-----|-------|-------------------------------------|
| 委員長 | 川瀬 貴晴 | 千葉大学大学院教授 |
| 委員 | 赤司 泰義 | 東京大学大学院教授 |
| 委員 | 秋元 孝之 | 芝浦工業大学教授 |
| 委員 | 淡野 博久 | 国土交通省住宅局住宅生産課建築環境企画室長 |
| 委員 | 奥宮 正哉 | 名古屋大学大学院教授 |
| 委員 | 小泉 雅生 | 首都大学東京大学院教授 |
| 委員 | 宿谷 昌則 | 東京都市大学大学院教授 |
| 委員 | 野部 達夫 | 工学院大学教授 |
| 委員 | 野間 隆康 | (独)都市再生機構技術・コスト管理部ストック設計チーム
リーダー |
| 委員 | 安田 幸一 | 東京工業大学大学院教授 |
| 委員 | 吉田 治典 | 京都大学名誉教授 |

7. 応募資料

1) 提出資料

- (1) 第6回サステナブル建築賞応募申請書：様式1
- (2) 設計要旨及び建築・設備の概要に関する資料：様式2-1、2-2
- (3) 全景写真及び代表的な建築図面：様式3
- (4) エネルギー消費の実態：様式4-1、4-2
(小規模建築物部門については、資料の作成が困難な場合には省略可とします。)
- (5) CASBEE 評価結果表示シート(所定の書式)
(小規模建築物部門については、資料の作成が困難な場合には省略可とします。)
- (6) 「省エネルギー計画書」を提出した場合は、その写し(「省エネ法律第75条第1項、第75条の2第1項の規程に基づく建築物に係る届出等に関する省令」の第1号様式とし、図面や機器表、系統図等は添付不要です)。
- (7) その他、応募作品の環境性能や運用実態等について示す説明資料を適宜添付してください。

2) 資料の綴じ方

A4判フラットファイル(紙製)1冊に綴じて2部提出してください。用紙はA4又はA3としてください。A3の場合は、横使いとして折り込んでください。

8. 日程

1) 応募受付期間

平成27年9月1日(火)～平成27年9月30日(水)(消印有効)

2) 表彰式

平成28年2月中旬に東京で開催(予定)

9. 後援

国土交通省

10. 協賛

(公社)空気調和・衛生工学会、(一社)建築設備技術者協会、断熱建材協議会、電気事業連合会、(一社)日本ガス協会、(一社)日本空調衛生工事業協会、(一社)日本建設業連合会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本建築学会、(公社)日本建築士会連合会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一財)日本建築センター、(一社)日本サステナブル建築協会、(一社)日本設備設計事務所協会、(一社)日本電設工業協会、(一社)日本ビルディング協会連合会、(一社)日本冷凍空調工業会、(一財)ベターリビング、(公社)ロングライフビル推進協会

11. 補足事項

1) 応募資料について

- (1) 審査の必要上、追加資料の提出を求めることがあります。
- (2) 募集要項3に記載の応募部門は、応募者と協議のうえ、応募部門を変更する場合があります。
- (3) 応募資料は返却しません。

2) 入賞作品の公表等について

- (1) 入賞作品は財団のホームページ、機関誌「IBEC」の他、住宅・建築関係の新聞、雑誌などで発表します。
- (2) 一部の入賞作品については、表彰式後、入賞作品について設計等をされた方から設計にあたってのコンセプトや工夫した点などについて、発表をしていただく作品報告会を予定しています。
- (3) 入賞作品については、広報の利用に供するためパネル用データの提出、財団機関誌への寄稿をお願いします。
- (4) 広報のために使用する応募資料の写真・データ等、パネル用データ等については無償で使用させていただきますので予めご了承の上ご応募ください。
(著作権等の取り扱いはその時点で相談させていただきます。)
- (5) 入賞作品以外は公表しません。

12. 応募資料の提出先・問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-1 全共連ビル麹町館
(一財)建築環境・省エネルギー機構 サステナブル建築賞係
電話 03-3222-6688 FAX 03-3222-6696

ホームページ <http://www.ibec.or.jp> (過去の受賞作品がご覧になれます)

第6回サステナブル建築賞 応募申請書

一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構 御中

第6回サステナブル建築賞に応募したいので、関係資料を添えて申し込みます。

応募責任者 (A 建築主 B 設計者 C 施工者)

各欄とも該当するものを、○で囲んでください。

所属、氏名 (フリガナ)	印
--------------	---

応募者

建築主	(住所・所在地、氏名・会社名)
設計者	(住所・所在地、氏名・会社名)
施工者	(住所・所在地、氏名・会社名)

連絡責任者 (A 建築主 B 設計者 C 施工者)

(フリガナ)		所 属	
氏 名			
電 話	() -	F A X	() -
会 社 名		Eメール	
住所・所在地	〒		

応募建築物 (工事の別) A 新築 B 増改築 C 模様替等

応募の部門	1. 事務所建築部門 2. 商業施設その他部門 3. 小規模建築部門				
建築物の名称					
所 在 地					
主 要 用 途					
竣工時期等	A 新 築	竣工年月日	年 月 日	使用開始年月日	年 月 日
	B 増改築	当初の		当初の	
		竣工年月日	年 月 日	使用開始年月日	年 月 日
	増改築部分の	竣工年月日	年 月 日	使用開始年月日	年 月 日
		竣工年月日	年 月 日	使用開始年月日	年 月 日
	C 模様替 等	当初の		当初の	
竣工年月日		年 月 日	使用開始年月日	年 月 日	
模様替等の	完了年月日	年 月 日	模様替等完了後の		
完了年月日	年 月 日	使用開始年月日	年 月 日		
受賞履歴					

設計要旨及び建築・設備の概要に関する資料 - 1

建築物の概要				建築物使用区分	
階数	地上 地下	階、塔屋 階	階	主たる用途	面積、比率
高さ	軒高	m、最高	m	事務室	m ² %
建築面積			m ²		m ² %
基準階面積			m ²		m ² %
延べ面積			m ²		m ² %
全空調面積			m ²		m ² %
構造					m ² %
エネルギー 措置 *1	適用基準：①ホテル等 ②病院等 ③物販店等 ④事務所 *2・*3 ⑤学校等 ⑥飲食店等 ⑦集会所等 ⑧工場等 ⑨共同住宅 [a:ポイント法、b:簡易なポイント法]				m ² %
	PAL		CEC/AC	合計	m ² 100%
	同上ポイント		同上ポイント		
	CEC/V		CEC/L	平方メートル当たりの概算工事費（外構、杭及びその他特殊基礎工事費用を除く。）	
	同上ポイント		同上ポイント		
	CEC/HW		CEC/EV		
	同上ポイント		同上ポイント		
熱損失係数 *4		夏季日射取得 係数 *4	約	万円/m ²	
平成25年度基準を適用している場合は次の項目についてご記入ください。					
(1)外壁、窓等を通しての熱の損失の防止のための措置 (PAL*)					
年間熱負荷係数 (MJ/m ² ・年)					
(基準値 MJ/m ² ・年)					
(2)空調和設備等に係るエネルギーの効率的利用のための措置					
基準一次エネルギー消費量 (GJ/年)					
設計一次エネルギー消費量 (GJ/年)					
設備概要			電気概要 *5		
空調方式：			設備容量：照明コンセント () VA/m ²		
熱源方式：			：一般動力 () VA/m ²		
給湯方式：			：空調動力 () VA/m ²		
冷房熱源容量： () kW (又は RT)			：合計 () VA/m ²		
暖房熱源容量： () kW (又は MJ/h)					
蓄熱槽： () m ³					
給湯熱源 (電気・ガス・油・) 容量：					
() kW (又は MJ/h)					
*6 年間エネルギー消費量実績 (平成 年 月 ~ 平成 年 月)					
電力	kWh	ガス	m ³	油	1

- 注 *1 延べ面積が 300 m²以上の建築物については、省エネルギー計画書に基づき記入してください。
また、適用基準を選択してください。
- *2 適用基準が複数になる場合は、用途毎にまとめて別添にしてください。
- *3 ポイント法または簡易なポイント法を使用の場合は、[] 内の a または b を選択ください。
- *4 共同住宅の場合は必ず記入してください。
- *5 この表における m²当りの計算は延べ面積を用いて算出してください。
- *6 データを把握している範囲で記入してください。

設計要旨及び建築・設備の概要に関する資料-2

設計の要旨及び環境負荷低減、省CO₂、省エネルギー、省資源、リサイクル等、サステナブル建築となるように計画した内容（特長、仕様、工夫等）について説明してください。表やグラフ、写真を添えて説明してもかまいません。欄が小さい時は、A4複数枚やA3を使用してください。A3の場合は、横使いにして、A4に折り込んでください。

全景写真及び代表的な建築図面

建物の全体的な姿や用途が把握できるように、全景写真（サービス版程度）及び建築図面等（基準階平面図など）を示してください。欄が小さい時は、A4複数枚やA3を使用してください。A3の場合は、横使いにして、A4に折り込んでください。

エネルギー消費量の実態

標準的な空調使用状況 1			標準的な空調使用状況 2	
*1 用途区分	空調面積	使用時間	冷房期間	月 日 ~ 月 日
事務室	m ²	~	冷房時間	時 ~ 時
	m ²	~	暖房期間	月 日 ~ 月 日
	m ²	~	暖房時間	時 ~ 時
	m ²	~	空調使用状況に関する特記事項	
	m ²	~		
	m ²	~		
	m ²	~		
	m ²	~		

*2

各年の年間エネルギー 消費量実績 年 月 ~ 年 月		電 力		ガ ス		油		*3 一次エネ換算
		kWh	kWh/m ²	m ³	m ³ /m ²	l	l / m ²	MJ/m ²
1年目	~							
2年目	~							
3年目	~							

注 *1 標準的な空調使用状況1の用途区分は、用途、使用時間、その他の条件により適宜区分してください。

*2 この表におけるm²当りの計算は延べ面積を用いてください。

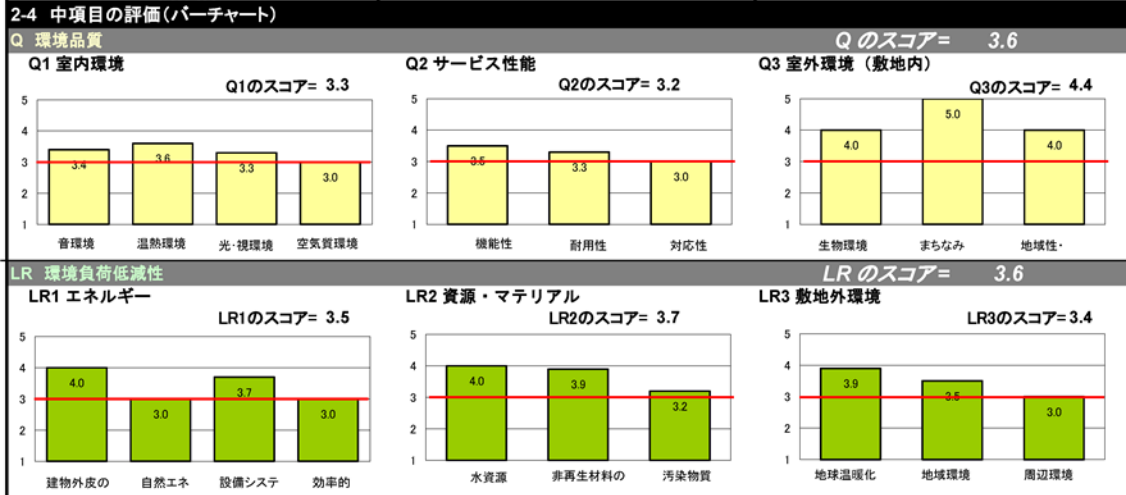
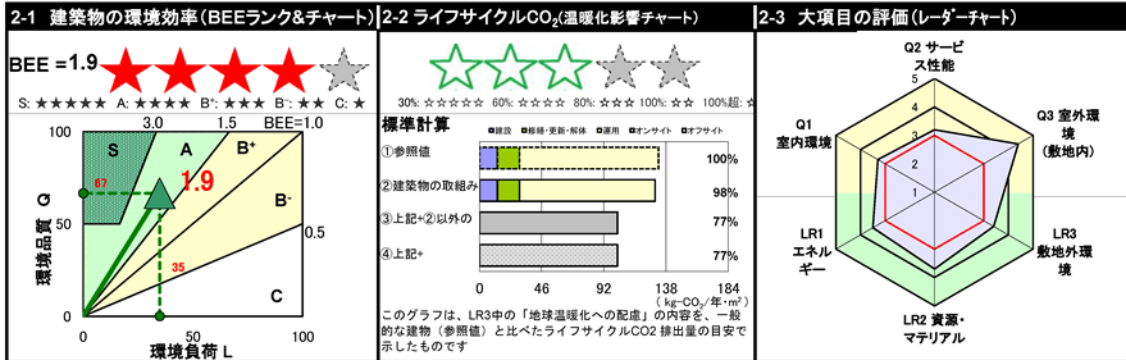
*3 一次エネルギー換算は平成21年経済産業省・国土交通省告示第3号に定める数値を用いて計算してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
気候区分		年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月	評価の実施日	2014年7月8日
敷地面積	XXX m ²	作成者	〇〇〇
建築面積	XXX m ²	確認日	2014年7月10日
延床面積	3,000 m ²	確認者	〇〇〇

外観バース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。		その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される